

論文番号 235

担当

独立行政法人 酒類総合研究所

題名 (原題/訳)

Gamma-hydroxybutyric acid versus alcohol preference in Sardinian alcohol-preferring rats.

アルコール嗜好性 Sardinian ラットにおけるガンマヒドロキシブチリック酸とアルコールの嗜好

執筆者

Serra S, Colombo G, Melis S, Vacca G, Carai MA, Gessa GL

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Alcohol Alcohol. 2002, 37(2):128-31.

キーワード

Sardinian ラット、GHB、アルコール、嗜好性、

要旨

以前の研究でアルコール嗜好 Sardinian ラットは遺伝的にガンマヒドロキシブチリック酸(GHB)の薬理的な投与量に値する量を消費する傾向があることが示されている。本研究では sP ラットを用いてGHBとエタノールの強化効果についてGHBやエタノールを同時に与えたときの摂取量を検討することで性質を比較することを目的としている。まず初めに、エタノールナイーブラットとエタノールを経験したラットを用いて強化効果を調べるために、好ましい味でない GHB を強制的に摂取させた。その後 GHB 溶液を水と共に自由摂取させると、全てのラットで薬理的な濃度のGHBを摂取した。またGHB、エタノール、水の間での自由摂取で日常的なエタノールの摂取は約 6g/kg であった。一方、GHB の摂取は約 75%まで減少した。数匹のラットでGHBの高用量の摂取が観察されたがエタノールの摂取に変化は観察されなかった。また、GHB 摂取ラットでエタノールの経験の差は観察されなかった。以上の結果から、自由摂取できるときの GHB はエタノールの嗜好性や消費量を変化させず、両薬の相互代替は完全に強化的性質に関連しない。これらの結果はまた、人のアルコール依存症患者で観察される GHB の低い常習性を説明するモデルとなると思われる。